

## 第2章

---

# 子どもを取り巻く環境の状況

---



## 第2章 子どもを取り巻く環境の状況

### I. 社会的な状況

#### 1. 少子化の進行

##### (1) 人口・年齢3区分別人口

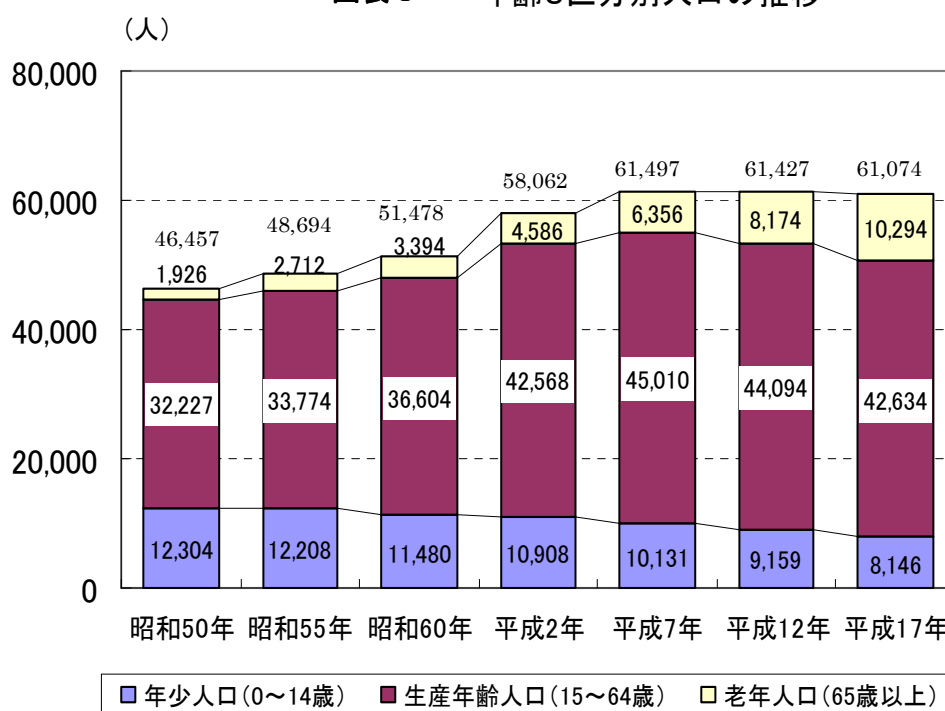
福生市の人口は、昭和50年（1975年）以降の国勢調査結果を基にグラフ化すると以下の通りです。

昭和50年から平成7年にかけて毎年微増傾向が続き、平成7年は61,497人を数えるに至りましたが、その後減少に転じ、平成17年には61,074人となっています。

また、年齢を年少人口、生産年齢人口、老年人口の3区分別にみると、平成17年の15歳未満の年少人口は8,146人で総人口に対し13.3%、15歳から64歳までの生産年齢人口は42,634人で総人口に対し69.8%、65歳以上の老年人口は10,294人で総人口に対し16.9%となっています。

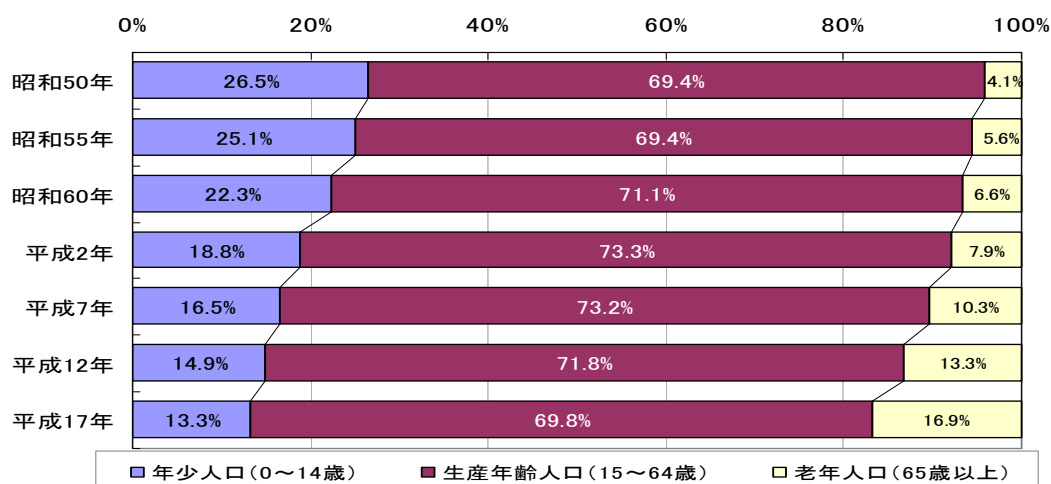
図表4の人口構成の推移を年少人口からみると、昭和50年の26.5%から平成17年には13.3%となり、本市においても少子高齢化が着実に進行しています。

図表3 年齢3区分別人口の推移



資料：総務省「国勢調査」

図表4 年齢3区分別人口構成の推移



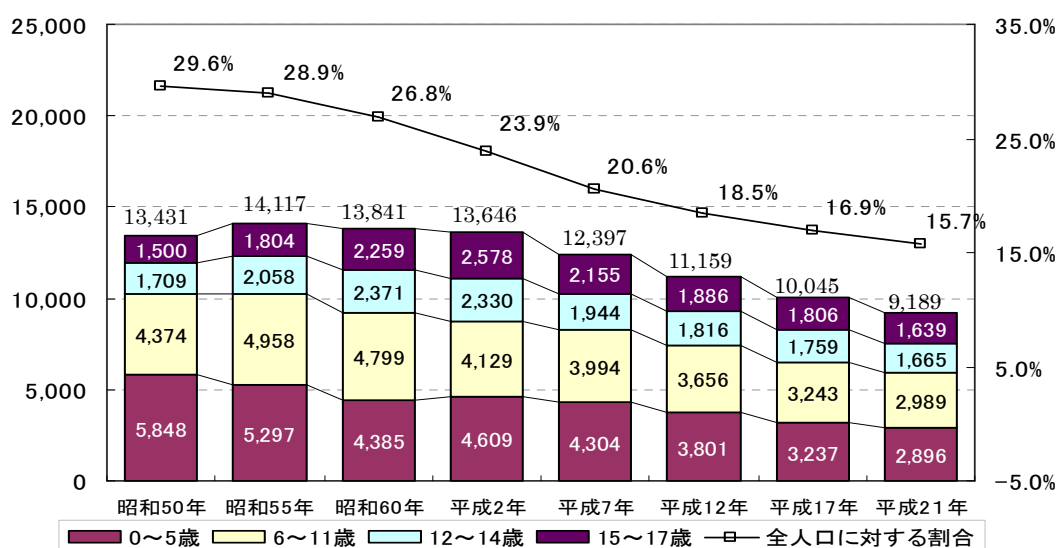
資料：総務省「国勢調査」

## (2) 子どもの人口

18歳未満の子どもの人口は、少子化の進行とも相まって昭和55年以降減少傾向にあり、平成21年1月1日現在9,189人となっています。

総人口に対する子どもの人口の割合をみると、昭和50年以降一貫して低下していることがわかります。18歳未満の子ども数は、昭和50年の約3人に1人(29.6%)から平成21年には約6人に1人(15.7%)と少子化が進行しています。

(人) 図表5 子どもの人口(18歳未満)の推移

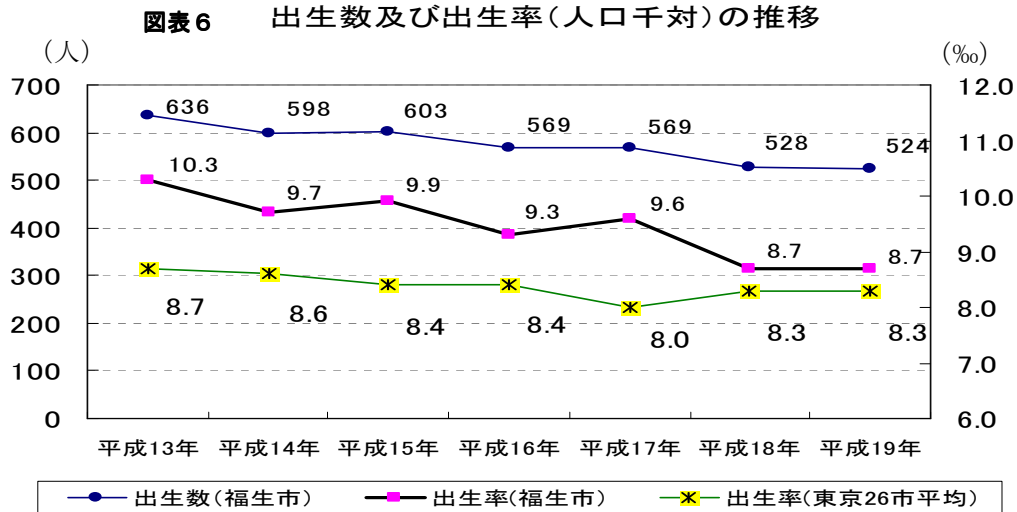


資料：住民基本台帳 各年1月1日現在

## 2. 出生の動向

### (1) 出生数

出生数は、平成13年以降わずかながら減少傾向にあり、平成19年には524人となっています。また、出生率は、東京26市の平均よりは高い水準にありますがその差は年々縮まりつつあります。

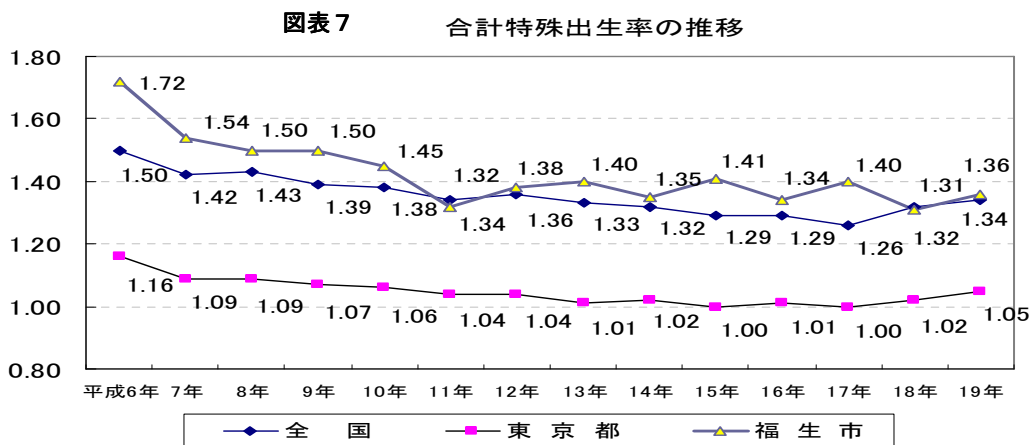


資料：東京都「人口動態統計」

### (2) 合計特殊出生率

合計特殊出生率（一人の女性が一生の間に産む平均子ども数）は、平成6年以降やや低下傾向にあり、平成19年には1.36となっています。

また、全国平均、東京都平均と比較してみると、全国的にも合計特殊出生率が低下傾向にある中で、本市では、全国平均、東京都平均を上回って推移しています。



資料：東京都「人口動態統計」

### 3. 婚姻の動向

#### (1) 未婚率

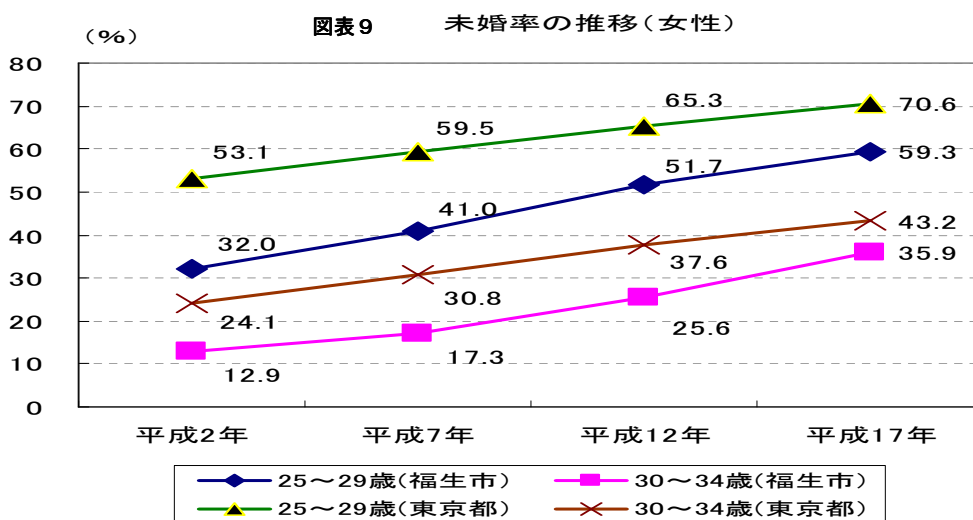
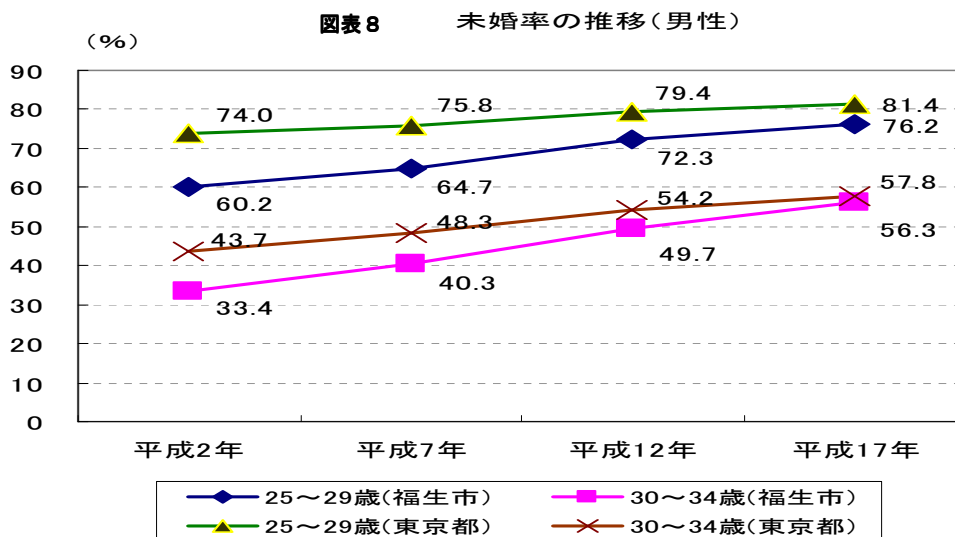
本市における未婚率の推移をみると、男女とも全体的に上昇しています。

30～34歳の男性では、平成2年に33.4%であったものが平成17年には56.3%と22.9ポイント上昇しています。

25～29歳の女性では、平成2年に32.0%であったものが平成17年には59.3%と27.3ポイント上昇しています。

未婚率を東京都と比較すると、男性、女性とも低いですが、その差は年々縮まりつつあります。

結婚しない人たちの割合が増加すれば、子どもの出生数に影響を与えることとなります。



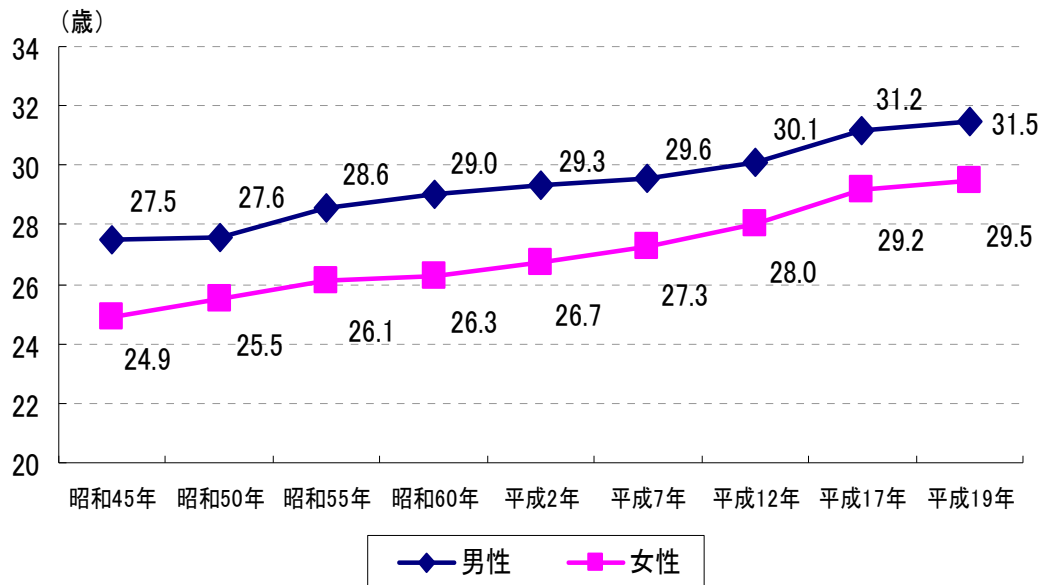
資料：総務省「国勢調査」

## (2) 初婚年齢

昭和45年以降、男性、女性とも平均初婚年齢がほぼ一貫して上昇している様子がわかります。約40年間で男性、女性の初婚年齢はそれぞれ4.0歳、4.6歳上がり晩婚化が進んでいることがわかります。

20～30歳代の未婚率の上昇に伴い、男女ともに平均初婚年齢が上昇する晩婚化が進展しています。晩婚化は出生年齢を引き上げることから晩婚化の進展中は、出生率が低下する傾向となり結果的に少子化が進行してしまいます。

図表10 平均初婚年齢の推移(東京都)

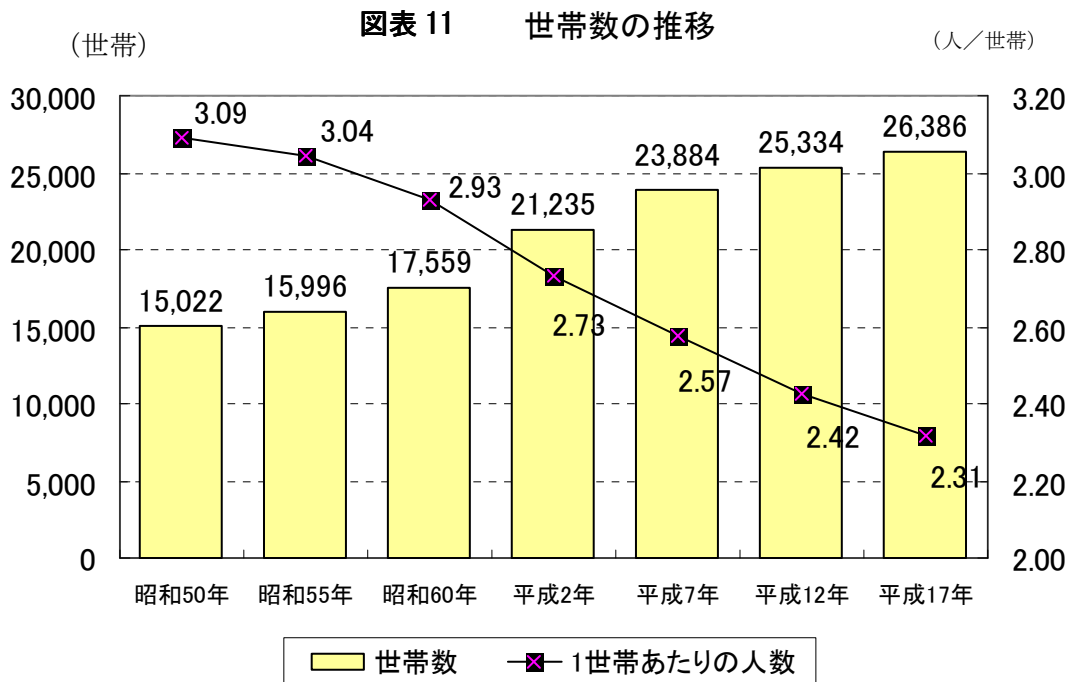


資料：東京都「人口動態統計」

## 4. 世帯の動向

### (1) 世帯数・一世帯あたりの人数

平成7年以降人口は減少傾向となっているものの、一般世帯数は増加しており、平成17年には26,386世帯となっています。そのため、人口を世帯で除した一世帯あたりの人数は、昭和50年の3.09人から減少傾向にあり、平成17年には2.31人となっています。



資料：総務省「国勢調査」

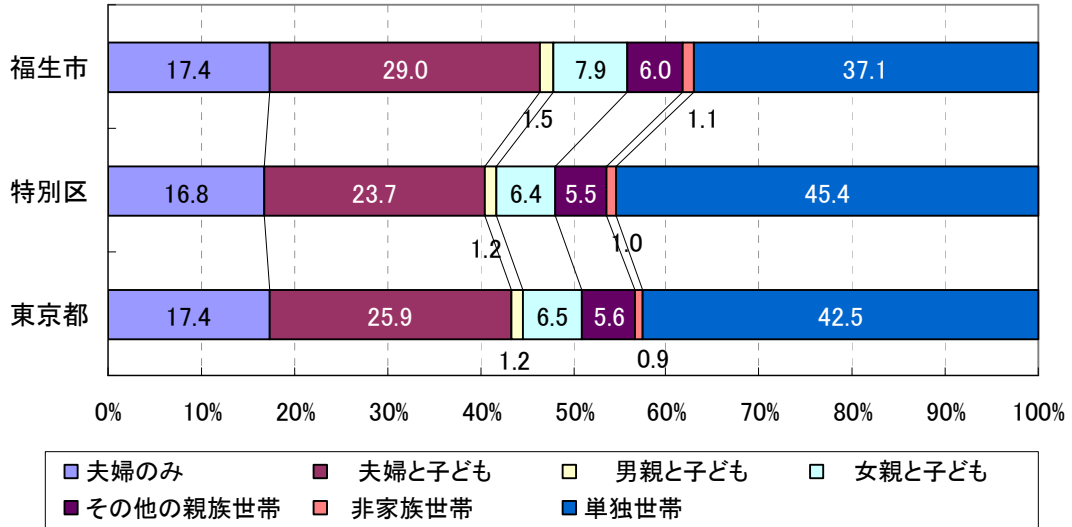


(2) 世帯構成

本市の世帯構成は、「夫婦と子ども」世帯の割合が 29.0%と、特別区、東京都と比較して高いことがわかります。

「男親と子ども」と「女親と子ども」を合わせた「ひとり親世帯」の割合は、9.4%と、特別区の 7.6%、東京都の 7.7%と比較して高いことがわかります。

図表 12 世帯構成比



資料：総務省「平成 17 年度国勢調査」

図表 13 世帯数と構成比

(単位：世帯、%)

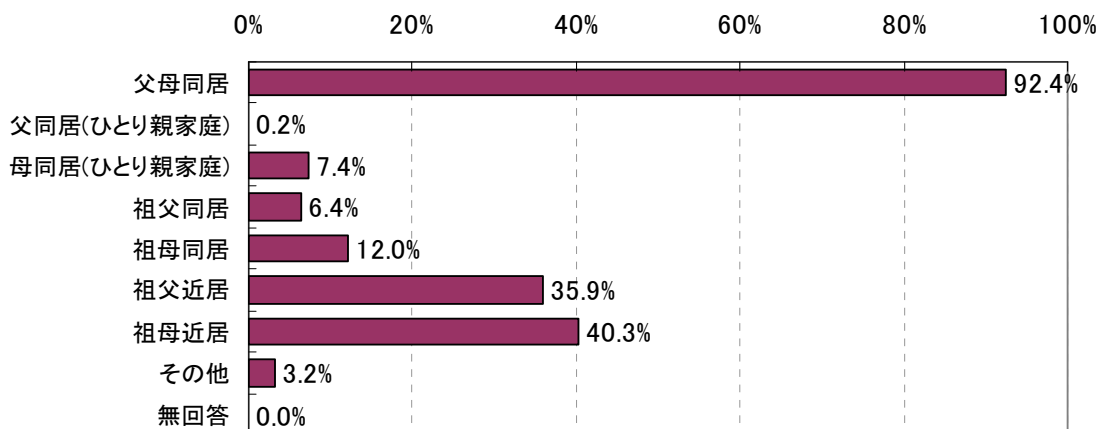
項目	総数	親族世帯総数	核家族世帯総数	核家族世帯				その他の親族世帯	非親族世帯	単独世帯
				夫婦のみ	夫婦と子ども	男親と子ども	女親と子ども			
福生市	26,386	16,289	14,704	4,595	7,642	391	2,076	1,585	288	9,809
				17.4	29.0	1.5	7.9	6.0	1.1	37.1
特別区	4,024,884	2,157,889	1,938,519	678,083	953,434	48,840	258,162	219,370	41,206	1,825,789
				16.8	23.7	1.2	6.4	5.5	1.0	45.4
東京都	5,747,460	3,251,276	2,931,367	1,001,392	1,489,139	70,086	370,750	319,909	52,039	2,444,145
				17.4	25.9	1.2	6.5	5.6	0.9	42.5

資料：総務省「平成 17 年度国勢調査」

### (3) 家族類型

本市における就学前児童の家庭を家族類型別にみると、夫婦と子の世帯（父母同居）の割合は約 92.4%、ひとり親家庭は 7.6%となっています。3 世代同居の世帯は 12.0%以上あり、また、4 割を超える世帯が祖父母の近くで生活をしています。

図表 14 家族の状況(就学前児童の家庭)

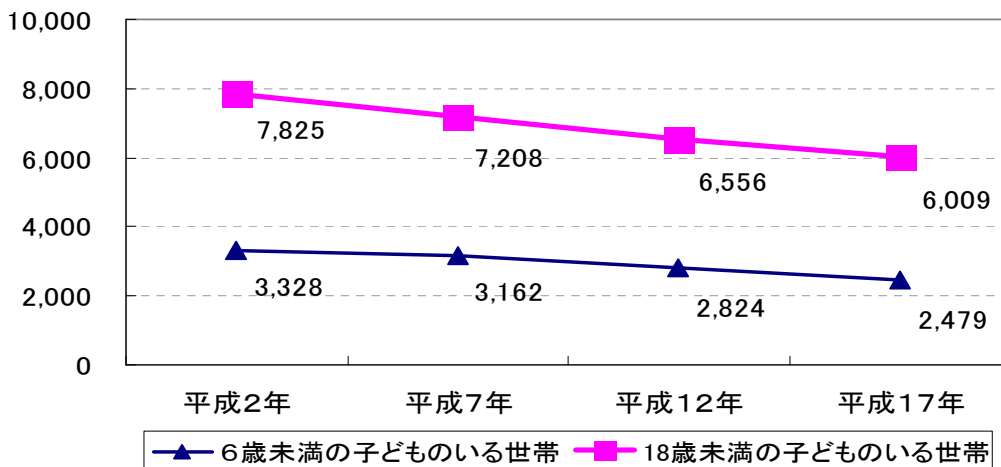


資料：福生市次世代育成支援行動計画策定に伴うニーズ調査結果報告書

### (4) 6 歳未満、18 歳未満の子どものいる一般世帯数

本市の 6 歳未満、18 歳未満の子どものいる世帯数についてみると、6 歳未満、18 歳未満の子どものいる世帯数とも減少傾向にあり、平成 17 年にはそれぞれ 2,479 世帯、6,009 世帯となっています。

図表 15 6歳未満、18歳未満の子どものいる一般世帯数の推移



資料：総務省「国勢調査」

## 5. 働く女性の状況

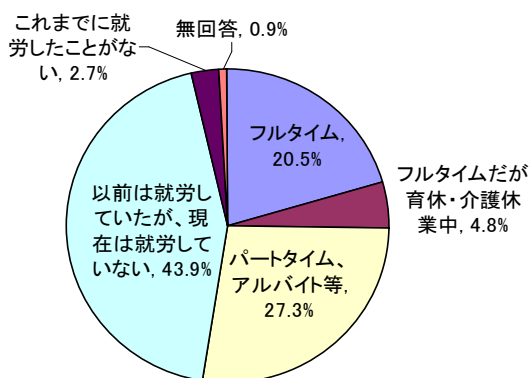
### (1) 女性の就労

女性の就労状況は、就学前児童の家庭では、フルタイムで 25.3%（育休・介護休業中を含む）、パートタイム等は 27.3%であり 52.6%の世帯の女性が就労をしています。

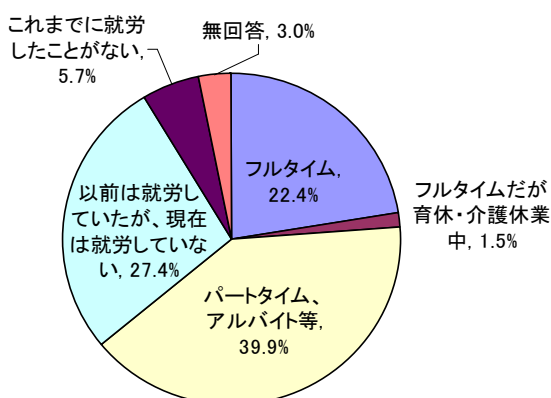
また、小学校児童の家庭では、フルタイムで 23.9%（育休・介護休業中を含む）、パートタイム等が 39.9%であり 63.8%の世帯の女性が就労をし、子ども年齢が高くなるほど、就労割合が高くなる傾向にあります。

図表 16 母親の就労状況

#### 就学前児童の家庭



#### 小学校児童の家庭

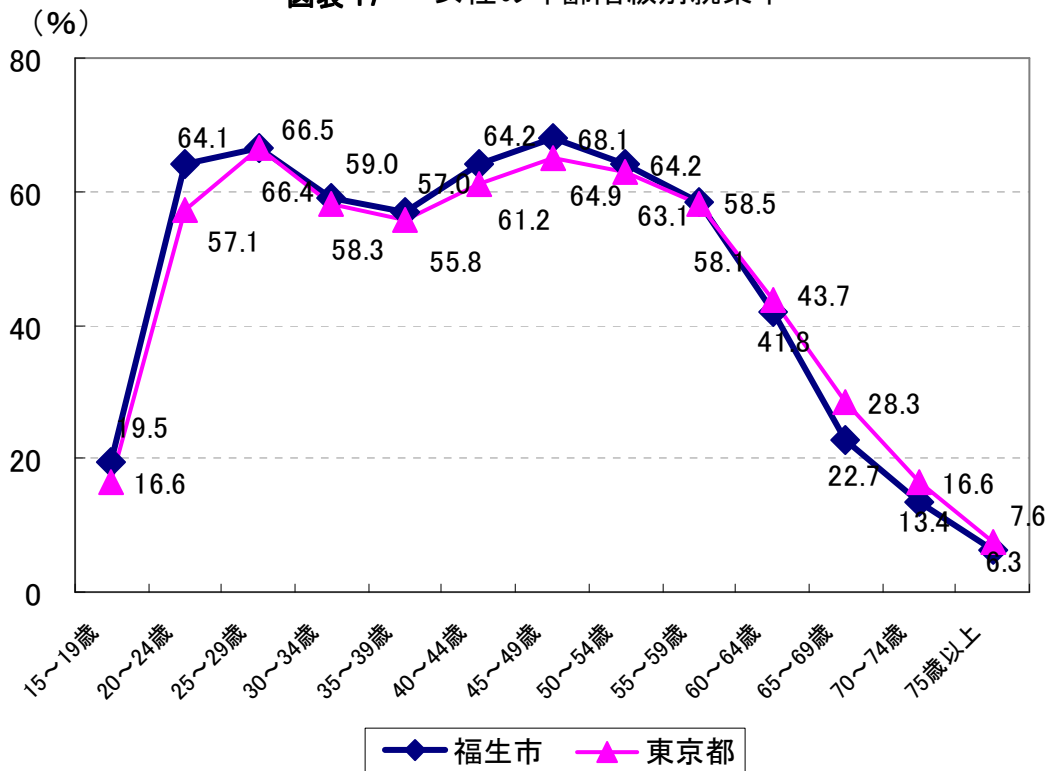


資料：福生市次世代育成支援行動計画策定に伴うニーズ調査結果報告書（平成 21 年 2 月）

## (2) 年齢別女性の労働力

福生市における女性の就業率を年齢別にみると、「30～34歳」(59.0%)および「35～39歳」(57.0%)の30歳代を底とするM字型を示しています。このことは、30歳代で結婚や出産を機にいったん仕事を離れ、その後再就職する女性が多いことを示しています。東京都と比較すると、15歳から59歳までの就業率は高いですが、60歳を超えてからの就業率は低くなっています。

図表 17 女性の年齢階級別就業率

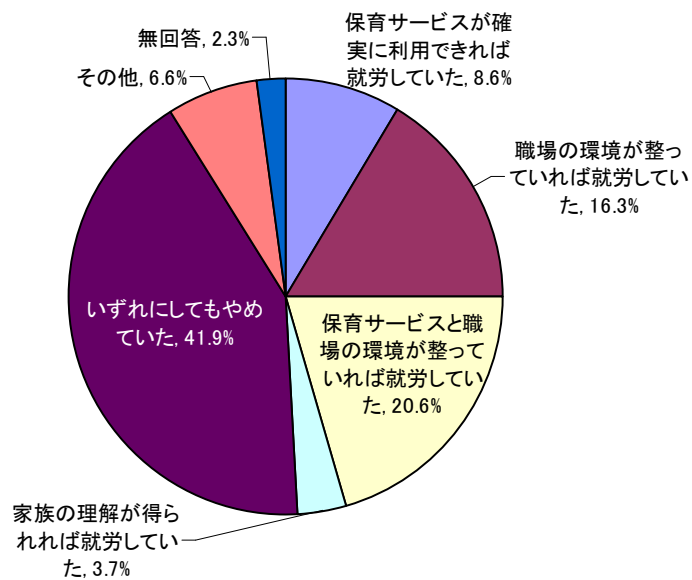


資料：平成17年度国勢調査

### (3) 女性の離職の要因と保育サービスとの関係

離職の要因と保育サービスの整備の関係では、「(保育サービスが整っていたとしても) いずれにしてもやめていた」が最も高く 41.9%となり、主体的に離職していることがうかがえます。次いで、「保育サービスと職場の環境が整っていれば就労していた」が 20.6%、「職場の環境が整っていれば就労していた」が 16.3%と続いています。「保育サービスが確実に利用できれば就労していた」は 8.6%にとどまり、離職の原因を保育サービスの整備のみに求める割合は少なくなっています。

図表 18 離職の要因



資料：福生市次世代育成支援行動計画策定に伴うニーズ調査結果報告書（平成 21 年 2 月）

## Ⅱ. 保育サービス等の状況

### 1 保育サービスの状況

#### (1) 保育園の状況

##### ① 施設数、入園児童数

福生市における認可保育所は、平成21年4月1日現在、市立保育園1園、私立保育園11園の計12園が整備されています。保育園全体の定員は、1,175人ですが、定員の弾力的な運用により、入園児童数は1,234人となっています。

**図表 19 保育園数、定員数、在籍児童数の推移 (各年4月1日現在)**

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
市立保育園数	4園	3園	2園	2園	1園
私立保育園数	8園	9園	10園	10園	11園
計	12園	12園	12園	12園	12園
定員数	1,175人	1,175人	1,175人	1,175人	1,175人
在籍児童数	1,217人	1,222人	1,201人	1,230人	1,234人
入所率	103.6%	104.0%	102.2%	104.7%	105.0%
待機児童数	0人	10人	0人	1人	2人

資料：子ども育成課

##### ② 待機児童数

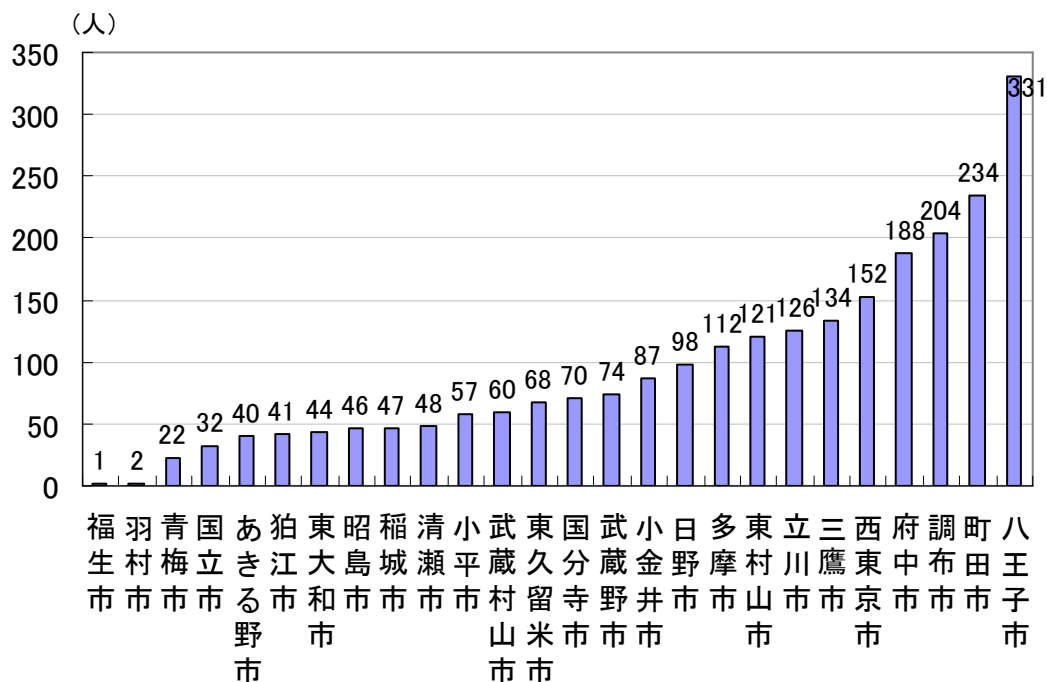
本市では、待機児童を解消するため、これまで定員の弾力的運用に努めるとともに、認可外保育所を利用されている方に補助金を交付することにより認証保育所等の他の保育施設への入所を勧め、待機児童数は、26市の中で最も低い比率となっています。

**図表 20 待機児童数の推移 (各年4月1日現在)**

年度	定員	待機児童数					
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	待機児計
平成17年度	1,175人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
平成18年度	1,175人	0人	4人	4人	1人	1人	10人
平成19年度	1,175人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
平成20年度	1,175人	0人	0人	0人	1人	0人	1人
平成21年度	1,175人	0人	2人	0人	0人	0人	2人

資料：子ども育成課

図表 21 保育園待機児童数(平成20年4月1日現在)



資料：データから見る福生

(2) 特別保育の実施状況

① 延長保育

保育園の保育時間は原則、午前7時から午後6時までですが、保護者の労働時間や通勤事情を考慮して、保育時間を夕方1時間延長する延長保育をすべての認可保育園で実施しています。

図表 22 延長保育の利用状況

項目	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
実施園数	12園	12園	12園	12園
月平均利用人員	199人	477人	393人	514人

資料：子ども育成課

## ② 乳児保育（0歳児）

乳児保育需要に対応するため、12園中10園で乳児保育が行われています。

**図表 23 乳児保育の利用状況**

項 目	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
実 施 園 数	10園	10園	10園	10園
月平均利用人員	68人	68人	76人	85人

資料：子ども育成課

## ③一時預かり

保護者の育児疲れの解消、短時間労働、急病、冠婚葬祭など、緊急又は一時的に保育が必要となる子どもを預かる一時預かりは、すべての保育園で実施しています。また、保育室は、平成20年度に認証保育所へ移行したため、現在一時預かりは実施していません。

**図表 24 一時預かりの利用状況**

施 設	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度	
	利用人数	利用日数	利用人数	利用日数	利用人数	利用日数
保育園・保育室	124人	718日	148人	931日	103人	577日

資料：子ども育成課

## ④休日保育

年末・年始を除く休祭日に、保護者の就労などのために家庭で保育ができない子どもを預かる休日保育は、福生保育園1園で実施しています。

**図表 25 休日保育の利用状況**

施 設	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度	
	利用人数	利用日数	利用人数	利用日数	利用人数	利用日数
福生保育園	36人	226日	34人	280人	37人	208日

資料：子ども育成課



### ⑤病後児保育

病気の回復期にある保育園に在籍する子どもを、集団保育が困難な期間預かる病後児保育は、平成20年11月から福生保育園1園で実施しています。

**図表 26 病後児保育の利用状況**

施設	平成20年度	
	利用人数	利用日数
福生保育園	12人	18日

資料：子ども育成課

### ⑥障害児保育

障害児の保育需要に対応するため、本市では全園で障害児保育が行われています。

**図表 27 障害児保育の利用状況**

項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
実施園数	12園	12園	12園	12園
月平均利用人員	19人	24人	22人	25人

資料：子ども育成課

## (3) 認証保育所・保育室

認証保育所は、東京都が定めた一定基準を満たしていると認められた施設です。保護者が仕事や疾病等のため一時的に保育ができない0歳から5歳までの子どもを対象として、市内3か所に整備されています。

保育室は、保護者が仕事や疾病等のために一時的に保育ができない0歳から2歳までの子どもを保育する施設です。現在、本市には認証保育所への移行により保育室はありませんが、管外の施設を利用している人は、月平均6名程度います。

**図表 28 認証保育所一覧**

認証保育所名	定員
牛浜保育所	30名
ありんこ保育所	30名
ちゃいれつく福生駅前保育園	20名
計	80名

資料：子ども育成課

**図表 29 認証保育所・保育室利用状況の推移（延べ人数）**

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
認証保育所	307 人	421 人	380 人	772 人
〃（管外）	48 人	59 人	43 人	21 人
小計	355 人	480 人	423 人	793 人
保育室	234 人	287 人	229 人	—
〃（管外）	72 人	73 人	81 人	73 人
小計	306 人	360 人	310 人	73 人
合計	661 人	840 人	733 人	866 人

資料：子ども育成課

#### （４）家庭福祉員制度（保育ママ）

家庭福祉員制度（保育ママ）は、保護者が仕事や病気などの事情により、家庭で保育できない乳幼児を家庭福祉員の自宅で預かり、家庭的な保育を行うものです。本市は、待機児童数が少ないため、現在は実施していません。

#### （５）乳幼児ショートステイ

乳幼児ショートステイは、保護者が事故、疾病、冠婚葬祭等のため一時的に保育ができない 0 歳から小学校入学前までの子どもを対象として、原則 7 日以内（宿泊可）保育するもので、平成 18 年 4 月から東京恵明学園へ委託して実施しています。

**図表 30 乳幼児ショートステイ利用状況の推移（年間延人数）**

施設	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度	
	利用人数	利用日数	利用人数	利用日数	利用人数	利用日数
東京恵明学園	22 人	40 日	28 人	68 日	14 人	41 日

資料：子育て支援課

## (6) ほっとサービスの利用状況

ほっとサービスは、住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせる「福祉のまちづくり」の実現に向けて、主に高齢者を対象として開始された福生市社会福祉協議会が実施している有償家事援助サービスです。

子育て支援サービスとしてのほっとサービスは、育児の援助を提供したい人（協力会員）と育児の援助を受けたい人（利用会員）が会員となり、相互に助け合いながら育児をサポートする制度が、平成14年度から始まりました。

**図表 31** ほっとサービスの利用状況の推移（子育て支援サービス）

区分年度	利用会員	協力会員	会員数計	利用回数	利用会員一人あたり平均利用回数
平成17年度	81	84	165	1,211	15.0
平成18年度	89	102	191	1,151	12.9
平成19年度	116	72	188	1,007	8.7
平成20年度	139	83	222	945	6.8

資料：福生市社会福祉協議会

図表32 保育サービスの利用状況

項 目	認可 保育園	家 庭 的 な 保 育	勤 務 先 の 保 育 施 設	認 証 保 育 施 設	認 定 こ ど も 園	そ の 他 の 保 育 施 設	幼 稚 園	幼 稚 園 の 預 かり 保 育	ベ ビ ー シ ッ タ ー	ほ っ と と サ ー ビ ス	無 回 答
TOTAL(n=332)	68.1%	0.6%	0.9%	4.8%	0.3%	1.2%	23.8%	9.0%	0.6%	0.6%	1.2%
0歳(n=28)	78.6%	0.0%	3.6%	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1歳(n=43)	81.4%	2.3%	0.0%	11.6%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%
2歳(n=49)	83.7%	2.0%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%
3歳(n=74)	62.2%	0.0%	1.4%	2.7%	1.4%	1.4%	31.1%	6.8%	1.4%	0.0%	2.7%
4歳(n=69)	53.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	46.4%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%
5歳(n=69)	65.2%	0.0%	1.4%	1.4%	0.0%	1.4%	31.9%	18.8%	1.4%	1.4%	0.0%

※網掛けは、15%以上の利用があるサービス。認可保育園、幼稚園の利用度が高い。

図表33 保育サービス利用意向

項 目	認可 保育園	家 庭 的 な 保 育	勤 務 先 の 保 育 施 設	認 証 保 育 施 設	認 定 こ ど も 園	そ の 他 の 保 育 施 設	幼 稚 園	幼 稚 園 の 預 かり 保 育	延 長 保 育	ベ ビ ー シ ッ タ ー	ほ っ と と サ ー ビ ス	一 時 預 かり	病 児・ 病 後 児 保 育	特 に な い	無 回 答
TOTAL(n=565)	26.2%	1.8%	13.3%	3.0%	8.1%	0.7%	14.7%	14.5%	6.4%	1.4%	3.2%	13.3%	17.3%	12.2%	13.3%
0歳(n=110)	50.9%	1.8%	16.4%	10.0%	4.5%	0.0%	21.8%	12.7%	5.5%	0.9%	0.9%	17.3%	10.0%	1.8%	8.2%
1歳(n=99)	32.3%	2.0%	18.2%	3.0%	9.1%	1.0%	20.2%	19.2%	7.1%	1.0%	2.0%	12.1%	19.2%	7.1%	6.1%
2歳(n=95)	17.9%	0.0%	12.6%	1.1%	7.4%	2.1%	20.0%	21.1%	5.3%	2.1%	5.3%	9.5%	23.2%	8.4%	13.7%
3歳(n=91)	22.0%	0.0%	7.7%	2.2%	8.8%	0.0%	7.7%	7.7%	8.8%	2.2%	5.5%	13.2%	16.5%	14.3%	22.0%
4歳(n=89)	12.4%	3.4%	13.5%	0.0%	14.6%	1.1%	7.9%	14.6%	5.6%	1.1%	2.2%	16.9%	20.2%	18.0%	18.0%
5歳(n=81)	14.8%	3.7%	9.9%	0.0%	4.9%	0.0%	7.4%	11.1%	6.2%	1.2%	3.7%	9.9%	16.0%	28.4%	13.6%

※網掛けは、15%以上の利用意向があるサービス。認可保育園、病児・病後児保育のニーズが高い。（現在は利用していないが、できれば利用したい、あるいは、足りていないと思う保育サービス）

資料：福生市次世代育成支援行動計画ニーズ調査結果報告書（平成21年2月）

## 2. 学童クラブ・ふっさっ子の広場・児童館の状況

### (1) 学童クラブ等の状況

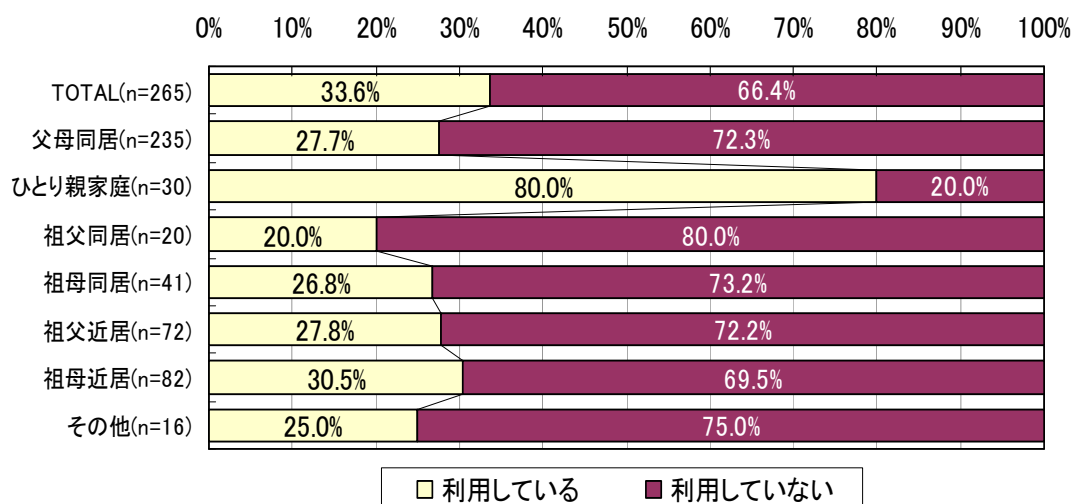
学童クラブの待機児解消のため、平成18年度に福生第二小学校内に臨時第2たんぼぼクラブ（定員30人）を開設しました。平成19年度には福生第七小学校内に臨時第2田園クラブ（定員30人）を開設するとともに、武蔵野台児童館を改修し受入児童数の増を図りました。学童クラブは、現在10か所設置されており、平成20年度から待機児童はでていません。

図表 34 学童クラブ利用状況の推移 (各年4月1日現在)

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
箇所数	8箇所	9箇所	10箇所	10箇所	10箇所
入所希望人数	501人	505人	564人	566人	563人
入所児童数	423人	463人	542人	566人	563人
入所率	84.4%	91.7%	96.1%	100.0%	100.0%
待機児童数	78人	42人	22人	0人	0人

資料：子ども育成課

図表 35 世帯状況別学童クラブの利用状況



資料：福生市次世代育成支援行動計画ニーズ調査結果報告書（平成21年2月）

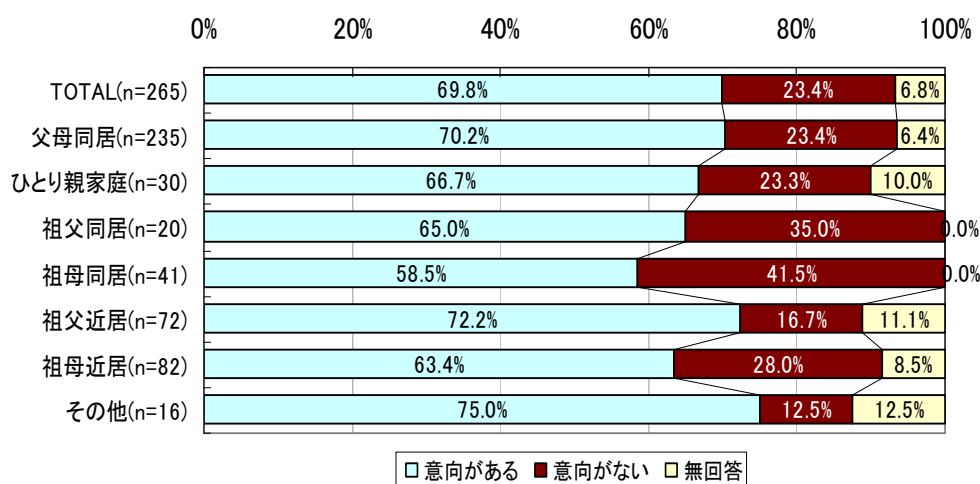
## (2) ふっさっ子の広場

ふっさっ子の広場は、放課後等に小学校の施設を利用して児童が安全に過ごし、学年を超えた児童相互の交流により、自主性・社会性・協調性等の育成を図ることを目的に、平成19年10月に福生第六小学校で開設されました。平成20年6月には福生第三小学校、福生第五小学校、福生第七小学校で、平成21年6月には残りの福生第一小学校、福生第二小学校、福生第四小学校でそれぞれ開設され、現在は全小学校で実施されています。

ニーズ調査の結果によると、約7割の家庭でふっさっ子の広場の利用を希望しています。

また、平成20年度の参加者数は、22,840人となっています。

図表 36 ふっさっ子の広場の利用意向



資料：福生市次世代育成支援行動計画ニーズ調査結果報告書（平成21年2月）

図表 37 学童クラブとふっさっ子の広場との開設時間等の比較

項目	学童クラブ	ふっさっ子の広場
月～金曜日（4月～9月）	放課後～午後6時	放課後～午後6時
月～金曜日（10月～3月）	放課後～午後6時	放課後～午後5時
土曜日	午前8時30分～午後6時	—
長期休業期間	午前8時30分～午後6時	午後1時～午後6時

### (3) 児童館

本市では、田園児童館・武蔵野台児童館・熊川児童館の3館が整備されています。平成19年度からは、指定管理者が管理運営を行っており、開館時間・開館日数とも増加しました。

図表 38 児童館利用者数の推移

年 度	田園児童館	武蔵野台児童館	熊川児童館	合 計
平成 17 年度	29,216 人	37,846 人	26,285 人	93,347 人
平成 18 年度	32,238 人	38,416 人	24,720 人	95,374 人
平成 19 年度	30,571 人	43,562 人	27,839 人	101,972 人
平成 20 年度	28,992 人	40,090 人	28,133 人	97,215 人

資料：子ども育成課

### 3. 子ども家庭支援センター事業

子ども家庭支援センターは、子どもと家庭に関する総合相談等の窓口として、相談業務のほか子育て支援情報の提供を行っています。平成17年7月に開設され、平成20年1月には従来型から先駆型に移行し機能の充実を図っています。

児童虐待が認められる家庭への支援、不適切な養育態度や生活環境にある家庭への相談・指導も行っています。

図表 39 各種相談事業の概要

項 目	養護相談	保健相談	障害相談	非行相談	育成相談	その他の 相 談	計
平成 17 年度	197	3	30	1	241	29	501
平成 18 年度	930	9	64	5	494	24	1,526
平成 19 年度	884	25	49	37	537	43	1,575
平成 20 年度	1,666	92	177	49	619	51	2,654

資料：子育て支援課

#### 4. 幼稚園の状況

本市には私立幼稚園が4園あり、独自の建学精神やその教育目標に基づき運営されており、幼児の健やかな成長を支えています。

幼稚園終了後の預かり保育は4園すべてで実施されており、多様な保育ニーズへの対応を図っています。

図表 40 平成 21 年度幼稚園数、在園児数の状況 (5月1日現在)

幼稚園	年齢	定員	市内在園園児数	市外在園園児数	合計園児数
私立幼稚園 4園	3歳児	285人	153人	28人	181人
	4歳児	364人	159人	40人	199人
	5歳児	367人	207人	26人	233人
	計	1,016人	519人	94人	613人

資料：子ども育成課



### Ⅲ 前期計画の評価

福生市は、「子育ての喜びが実感できるまち」を基本理念として、平成16年3月に第3期福生市地域福祉計画に内包し、次世代育成支援行動計画を策定しました。

妊娠・出産から乳幼児期、児童期、青少年期と、心身ともに最も発達する時期の保護者や子どもたちを支援していく取組みには、様々な課題が存在します。

本市は、大きく「家庭・地域における子育ての支援」「母と子の健康を守り増進する」「子どもの豊かな人間形成を支えるまちづくり」「子育てと仕事を両立できるまちづくり」「子どもにやさしいまちづくり」という側面から、従来からの施策に加え新たな施策の取組みも開始しました。

・平成17年7月に、子育て支援の中核的な機能を持った【子ども家庭支援センター】が、福祉センター内に開設され、子どもと家庭に関わる総合相談と支援等が開始されました。

平成20年1月には、先駆型子ども家庭支援センターへ移行しています。それに伴い、関連機関との連携による児童虐待防止のネットワークの中核をなす要保護児童対策地域協議会が設置されました。児童虐待が認められる家庭への見守りサポート、不適切な養育態度や生活環境にある家庭に対する育児支援家庭訪問事業も開始され、児童虐待の防止に努めています。

平成21年4月には、福祉センターの一室から新たな施設「子ども応援館」へ移転し、親子のセンター利用の促進や子育て支援の情報提供に努めるとともに、家庭環境等の変化により多様化する相談に応えられるよう、相談業務の充実を図っています。

・【保育園の待機児数】は、認可保育園の定員の弾力的運用に努めるとともに、認証保育所等に通園する保護者への補助金制度の活用により26市の中で最も低い比率となっています。しかし、育児休業制度の利用等により年度途中では、0・1歳児の待機児数は増える傾向にあるため、保育に対するニーズを慎重に分析し、今後も待機児童解消に向けた取組みが必要です。

・平成20年11月には、福生保育園内に【病後児保育室】が開設されました。開設して間もないためか、利用状況は多くありません。保育園等を通じて利用者の拡大に向けた情報提供をするとともに、利用者からの意見等を参考に、さらに利用しやすい施設を目指していきます。

・市内には私立幼稚園が4園あり、それぞれの建学精神や教育目標に基づいて運営されています。プレ幼稚園事業、園庭・園舎の開放及び預かり保育等が自主的に行われており地域の子育て拠点となっています。

現在、少子化が進行する一方で、教育や保育に対するニーズが多様化し、親の就労の有無に係わらず利用可能な子育て支援の場が求められています。

幼児教育や育児不安を抱える専業主婦家庭への支援等に、多くの経験を持つ私立幼稚園の設置者と協議しながら、認定こども園をはじめとする新たな地域における子育て支援の方向を検討していきます。

・【学童クラブ事業】では、平成 18 年度に臨時第 2 たんぽぽクラブを新設しました。平成 19 年度には、臨時第 2 田園クラブと武蔵野台児童館の一室を改装し定員の増に努めました。このような対応により、平成 17 年度に 78 名いた待機児童は、平成 20 年 4 月以降ゼロとなっています。

平成 19 年度から児童館併設の学童クラブでは午後 7 時までの延長保育も実施していますが、平成 22 年度からすべての学童クラブで延長保育の実施を予定しています。

・【ふっさっ子の広場】は、平成 19 年 10 月にモデル校として福生第六小学校で開設されました。平成 20 年 6 月には新たに第三小学校、第五小学校、第七小学校で、平成 21 年 6 月には残りの 3 校でも開設され、小学生の新たな居場所となっています。

・【児童館】は、平成 19 年 4 月から指定管理者に管理運営を委託しています。

今まで閉館していた日・祭日の開館、高校生が利用しやすいよう午後 9 時までの開館等、開館日数・時間が大幅に増えました。平成 20 年度からは、中・高校生向けの事業が実施されるなど子どもたちの新たな居場所となっていますが、利用者数は多くありません。また、小学生の利用も、ゆとり教育の見直しや「ふっさっ子の広場」の開設にともない減少傾向にあるため、指定管理者と協議しながら児童館事業のあり方等について検討する必要があります。

また、就労等により平日は事業に参加できない保護者を対象に、日曜日の事業も一部実施されました。今後、保護者の参加状況等を考慮しながら事業の充実に努めるとともに、相談業務も積極的に行っていきます。

・平成 19 年度に社会福祉協議会や子ども家庭支援センターの職員が中心となり、保育園、幼稚園、子育てサークル等からなる【保育団体連絡会】が立ち上がりました。平成 21 年 4 月現在、28 団体が加入しており情報の共有や子育てに関する研修等を実施しています。今後もより多くの団体に会への参加を呼びかけ、充実した運営を進めていきます。

・子育て支援の重要な課題のひとつに、都市化・核家族化の進行に伴う子育て中の母親の孤立があります。それらを防止するためには、仲間づくりや気軽に何でも相談できる人との出会いが必要です。現在、ボランティアに支えられながら 8 か所の【子育てサロン】が実施されています。参加者からは好評であり、ニーズ調査結果の自由意見記載には開設回数の増を望む声が多く寄せられています。

また、児童館や杉ノ子保育園では【地域子育て支援拠点事業】として【子育てひろば】が、子ども応援館では常設の「ふれあいひろば」が実施されています。今後、利用者等の意見を参考に新たな「ひろば」の開設も検討していきます。

・【一時預かり】は、市内全保育園で実施されています。しかし、保育園内に一時預かりの専用スペースが確保されていないためニーズ調査結果の自由意見記載に多くの指摘があるように、実際には利用したい時期に利用できないことが多くあるようです。就労形態の多様化にともない一時預かりのニーズは増大していくと予想されますので、保育園設置者と協議の上、問題点を洗い直し、いつでも誰でもが利用したいと

きに利用できる体制を整えていく必要があります。また、幼稚園設置者と協議しながら幼稚園での一時預かり事業の実施を検討します。

・本市では独自の【ファミリー・サポート・センター事業】は実施しておりません。社会福祉協議会の自主事業である「ほっとサービス」がその機能を補っています。「ほっとサービス」は高齢者の家事援助サービスとして開始されたため、子育て中の保護者には利用度・認知度ともに低いことがニーズ調査結果からわかりました。今後、病児・病後児保育、夜間保育等の多様な保育ニーズの受け皿となるよう、支援方法について社会福祉協議会と協議する中で、必要に応じて市独自のファミリー・サポート・センターの立ち上げも検討していきます。

前期の取組みを中間的に総括すれば、最初の立ち上げは順調に進んでいると評価することができますが、市民から見て事業内容や事業成果がわかりにくいという課題もあります。次世代育成支援対策推進法は10年間の時限立法ですが、10年経過した後も、地域全体で子育てを支援し続ける意識を持続することが大切です。次代を担う子どもたちの声を聞きながら、すこやかな育ちを実現できる仕組みを構築していきます。

